

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

2013年7月23日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 医学研究科人間健康科学系専攻

近未来型人間健康科学融合ユニット・博士課程2年

氏 名 セオ サンパイオ プリシラ ユカリ

助成の種類	平成25年度 ・ 若手研究者在外研究支援 ・ 国際研究集会発表助成		
研究集会名	第20回国際老年学会 (IAGG 2013)		
発表題目	日本とブラジルにおける高齢者のQuality of Lifeの比較		
開催場所	COEX (Convention and Exhibition Center), 韓国・ソウル		
渡航期間	2013年06月23日 ～ 2013年06月27日		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有()		
会計報告	交付を受けた助成金額	100.000円	
	使用した助成金額	100.000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳	学会登録	30.000円
		往復航空チケット(KIX-Incheon 韓国)	18.000円
		交通・シャトル・タクシー「両空港」	12.000円
		ホテル・4泊	18.000円
	ソウルに生活費「交通・食事」	22.000円	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。)		

第 20 回国際老年学会(IAGG 2013)

この度大韓民国のソウルで開催された第 20 回国際老年学会(IAGG 2013)に参加いたしましたので、下記の通りご報告いたします。

【参加の目的】

日本とブラジルでは社会文化的な背景や環境因子が異なっており、これらが人々の QOL に影響を与える。申請者の研究の主目的は両国の QOL の違いとそれに関連する因子を比較文化論の視点から検討することであり、日系ブラジル移民についての分析も含まれている。申請者はこの機会に世界中の研究者と老年学、QOL 研究に関する情報を交換し、視野を広げたいと考え、本学会へ参加し発表を行いたいと考えた。

【学会の概要】

日程：2013 年 6 月 23 日～27 日

テーマ：IT 化を迎えた高齢社会（デジタルエイジング）健やかな老いとアクティブエイジングへの新しい展開

IAGG 2013 は多くの国から職種の異なる何千もの参加者が集まる大規模な学会である。そのため申請者は日本をはじめ、オーストラリア、イングランド、ブラジル、アメリカのハワイなどの人々と意見交換をすることができた。

学会テーマに即して、開催内容は加齢のプロセスに関する多くの側面について網羅されていた。しかしながら、発表者からよりアプローチされていたテーマは「虚弱(frailty)」であったと思う。John Morley 先生, Liang-Kung Chen 先生, Jean-Pierre Michel 先生をはじめとする多くのエキスパートの先生方、そして申請者の研究チームのリーダーである京都大学の荒井秀典教授、山田実助教が、発表の中でこの「虚弱(frailty)」について言及した。そのような発表や発言を通して「虚弱(frailty)」についての理解を深めることができた。

【発表】

日時：6 月 26 日 8 時から 9 時 30 分（第 1 セッション）

形式：シンポジウム（発表 3 演題、各 20 分間講演）

座長 1 名（京都大学荒井秀典教授）、発表者 3 名（申請者、京都大学 Ricardo Aurelio Carvalho Sampaio 氏, Rio Grande do Sul 大学 Emilio Moriguchi 教授※）

※参加できず代理で座長が発表

表題：日本とブラジルにおける高齢者の Quality of Life

【研究発表内容】

高齢者の生活の質（QOL）は社会保障制度や経済的状况により、各国間で異なることが知られている。今回、我々は異なる文化的背景にある日本とブラジルの高齢者におけ

る QOL の相違を検討することを研究目的とした。

方法：日本人とブラジル人の高齢者を対象に、WHOQOL アセスメントを用いて QOL を評価し、2 人種間の QOL の相違を比較した。

結果：ブラジル人は WHOQOL-100 の全体的 QOL と心理的側面、社会的関係、生活環境、精神性のドメインで日本人よりよいスコアを得ていたが、日本人は身体的側面および自立レベルのドメインでブラジル人より良いスコアを得た。WHOQOL-BREF では、ブラジル人は日本人より精神的 QOL と社会的 QOL が高かったが、他のドメインでは統計学的有意差を認めなかった。WHOQOL-OLD においてブラジル人は過去、現在、未来の活動、社会参加、死と死にいくこと、そして他者との親密さのドメインにおいて日本人より良いスコアを得た。

結論：日本はブラジルよりもより早く先進国の仲間入りをしているが、両国の高齢者の QOL の比較をすると、WHOQOL の中のほとんどのドメインでブラジル人のほうが高い得点を得たが、最も顕著な違いは、社会的ドメインで認められた。したがって、我々が、日本の高齢者に対して人間関係の回復や社会的役割を持つ機会、社会的支援の機会を提供することにより、日本の高齢者における QOL の向上が期待できる。

【発表に対する反応】

申請者の発表への質問は、多くはブラジル人の聴衆によるもので、日本で提供される保健サービスについての質問と、医療福祉チーム、高齢患者、ロボットのような技術の効果が QOL に及ぼす相互作用はどのようなものか、というものであった。

この発表の後、申請者ともう一人の発表者である Ricardo Aurelio Carvalho Sampaio 氏は、ブラジルの老年病専門医と老年学者読者を対象としている "Aptare" という雑誌のインタビューを受けた。記者は、日本における加齢のプロセス、日本に住む申請者たちの経験、研究プロジェクト等について尋ねた。

【謝辞】

この学会への参加は、申請者の見識を深め、人脈を広げる貴重な機会となりました。このような素晴らしい学会への参加を支援してくださった京都大学教育研究振興財団に深く感謝申し上げます。今後、申請者は得た知識の全てを学術研究活動に活かすと共に、このような貴重な経験を研究チームや同輩と共有したいと思います。

IAGG 2013

June 23-27, 2013
Seoul, Korea

THE 20TH
IAGG WORLD CONGRESS OF
GERONTOLOGY AND
GERIATRICS

Digital Ageing: A New Horizon for
Health Care and Active Ageing

 International Association of
Gerontology and Geriatrics

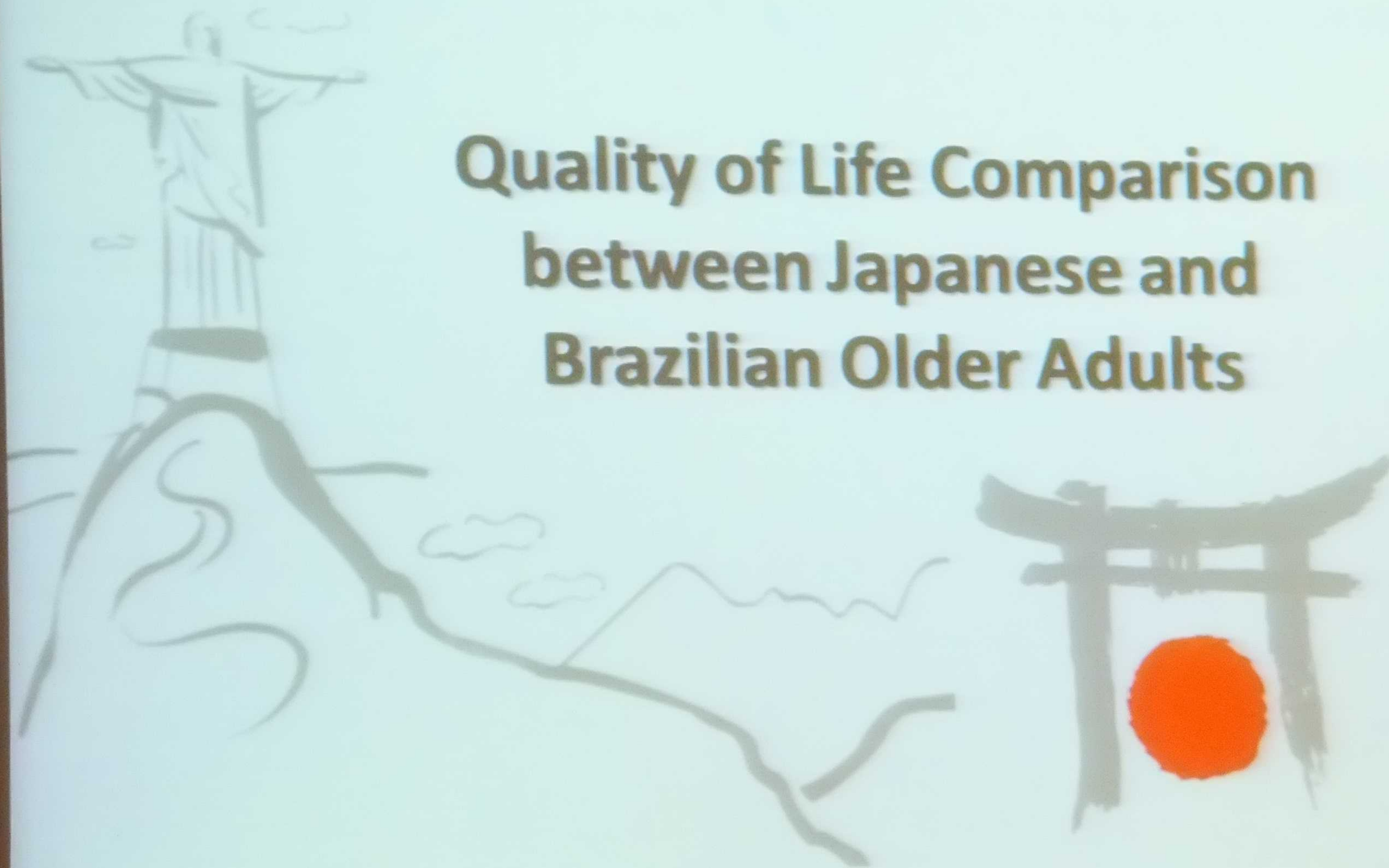
 The Federation of
Korean Gerontological Societies

 IAGG 2013
The 20th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics
June 23-27, 2013 Seoul, Korea



THE 20TH IAGG WORLD CONGRESS OF
GERONTOLOGY AND GERIATRICS





Quality of Life Comparison between Japanese and Brazilian Older Adults

Priscila Yukari Sewo Sampaio (OT, MSc)
Kyoto University Graduate School of Medicine

THE 20TH IAGG WORLD CONGRESS OF
GERONTOLOGY AND GERIATRICS



Brazil



Japan

